

# 育成だより 第117号

【発行】大刀洗町青少年育成町民会議 TEL 77-2670 FAX 77-2760

【編集】大刀洗町青少年育成町民会議広報委員会

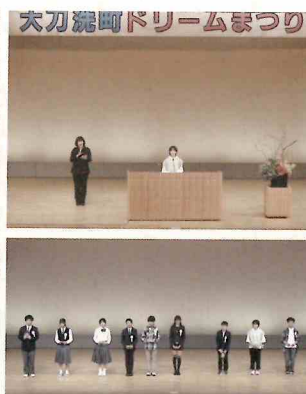
## 令和6年度 大刀洗町青少年育成町民会議の取組み

主な取組みは5つです。

### 大刀洗町教育の日「少年の主張大会」 私からのメッセージ

令和6年11月9日(土)

| 小学生の部 (敬称略) |    |    |    |
|-------------|----|----|----|
| 本郷小学校       | 6年 | 古賀 | 旺亮 |
| 大堰小学校       | 6年 | 佐藤 | 真菜 |
| 大刀洗小学校      | 6年 | 辻  | 将太 |
| 菊池小学校       | 6年 | 鹿田 | 海吏 |
| 本郷小学校       | 6年 | 佐藤 | 陸  |
| 菊池小学校       | 6年 | 川野 | 大誠 |
| 中学生の部 (敬称略) |    |    |    |
| 大刀洗中学校      | 1年 | 青木 | 真凜 |
|             | 2年 | 早野 | 凧紗 |
|             | 3年 | 山中 | 佑斗 |



【(2)～(9)ページに全文掲載】

### 各校区民会議の事業紹介

【(10)～(11)ページに掲載】

- ◆大刀洗校区民会議「ふれあい餅つき大会」
- ◆本郷校区民会議「羽釜でご飯を炊こう！」

- ◆菊池校区民会議「『歩け歩け』と『ポッチャ』を開催」
- ◆大堰校区民会議「自然に触れながら、地域の方々との交流を育む」

### 福岡県青少年育成県民会議 筑後北地区協議会研修大会 令和6年8月18日(日)

大刀洗町の今年度担当事業 ◆実践発表 ◆講演(柴原 洋 氏トークショー)  
 【(12)ページに掲載】 ◆アトラクション(五庄屋太鼓演奏)



### 「家庭の日」推進共同事業 中央公民館講座「親子を楽しむ!まなビィ講座」とのコラボレーション企画

第1回「防災講座 災害クッキング!～作る!食べる!もしもの時のごはん～」  
 令和6年7月15日(月祝)

第2回「たまには親子でボードゲームしよっか!3」  
 令和6年8月25日(日)

第3回「親子で体験!飯盒炊爨」 令和6年9月29日(日)

第4回「親子で歴史体験 かぶとをかぶろう!鎧にさわろう!」  
 令和6年10月14日(月祝)

第5回「冬の夜の大冒険?夜のドリームセンター探検」  
 令和6年12月15日(日)



【(13)～(16)ページに内容を掲載】

### 「育成だより」第117号発行

(広報委員会にて編集し、年1回発行)

# 少年の主張大会

「私からのメッセージ」小学生の部



なくしたい言葉

本郷小学校

六年 古賀 旺亮

ぼくたちは、言葉を使って人とやりとりをしている。言葉はなくてはならないものである。でも、ぼくには、その言葉の中で、どうしてもなくしたい言葉がある。それは、友達とのかかわりの中で使われた、人に優劣をつけるような言葉だ。

ぼくは、人と話すことが苦手だ。昔、学級の雰囲気は心地よくないことがあった。友達と話していても、悪口を言われるかもしれないという不安があった。友達の目が気になる、自分が話したことに對してなんとと思われるだろう、と考えてしまうようになった。ぼくは、どんどん口数が減っていった。そのうち、自分を出すことがこわくなり、学級の中で声を出すことがなくなっていた。そして、自分の思いを出さないように、なるべく無表情でいるようになっていった。人に優劣をつけるような言葉が飛び交っていると、そんなぼくがいてはいけな

いと言われているような感じがしたし、周りの友達のことにも心配になった。とても、とても苦しかった。

家に帰って、家族に、そのような言葉が実際にあることを話した。人を見た目で区別したり、優劣をつけたりするような言葉、なんのメリットも持たない言葉。そんな言葉は、この世界から消えてなくなればいいのにと、家族で願った。学級の中で明るく自分を出せている人たちが上で、それができていない人たちが下だともいうのだろうか。人を見た目で優劣をつけるような言葉や、性別や性格、考え方が自分とは違う人たちを下に見るような言葉。このような言葉が使われなければ、差別はなくなるのではないだろうか。人を否定するような言動も消え、肯定的な言動につながるのではないかと思う。

人は、誰でもちがう。誰とでも明るく遊べる子もいれば、静かに読書を楽しむ子もいる。それは、人それぞれの個性であり、認め合うことが必要だと思う。個性を誰かと比べたり、優劣をつけたりしなければ、人を区別するような言葉も消えてなくなると思う。だからこそ、ぼくは絶対にそんな言葉を使わない。

そんなふうに悩んでいたぼくを、ある日、母が言ってくれた言葉が救ってくれた。それは、「自分が変わるとまわりも変わるよ」という

言葉だった。その日から、ぼくは、自分から話しかけること、自分の心を表情に出すことを心がけた。すると、少しずつだが、人との関わりが苦手から楽しいに変わってきた。友達と話するのは今でも少し苦手に感じることもあるが、ぼくは、学校の授業で、ペアやグループで話すときに自分から話してみたり、友達の話に対して自分の考えを言ってみたりするようになってきた。すると、本当に、周りの友達からの見方も変わってきたように思う。

ぼくは、言葉によって傷つき、そして、言葉によつて救われた。言葉には、そんな力があると思う。

今、ぼくは友達が増え、楽しく過ごしている。それは、自分が変わることができたからだ。やはり、一人ひとりが、人を傷つけるような言葉を使わなければ、ぼくらの世界は変わるはずだ。思いやりをもち、優しい言葉を使うことは簡単で、決して難しいことではないと思う。なぜなら、自分が言われて嫌、されて嫌だと感じることをしない、それだけでいいからだ。この会場にいるみんな、あなたかい言葉を使う。それだけで、誰も傷つかずにすみ、それぞれの個性を明るく発揮し合える幸せな社会になると思う。





# 困難な時ほど、 ポジティブに

大堰小学校

六年 佐藤 真菜

みなさんは、自分の力だけではどうにもならない、困難なことに直面したことはありませんか。その時、どのような気持ちになりますか。そして、どのように行動しますか。

私は、七才から水泳をしています。はじめは、いろいろな泳ぎ方で泳げるようになりたいという思いで始めました。練習するたびに長く泳げるようになり、毎週月曜日に水泳に行くのをとても待ち遠しく感じていました。しかし、五年生の時に、タイムがなかなか伸びなくなり、優勝をめざしていた水泳大会では、タッチの差で優勝を逃してしまい、とてもくやし、落ち込みました。このとき、何とか自分自身の気持ちを切り替えて頑張ることができれば良かったのですが、私は、次第にやる気を失い、練習に行くこともいやになってしまいました。その結果、進級テストでは周りの友達に合格しているのに、自分だけ合格できなかったり、あれだけ楽しんでいた水泳に行くことも苦痛に感じたりするようになりました。

六年生の一学期、学級活動の授業の中で、学級を見つめ直す時間がありました。その時の

学級の状態はあまりいいとは言えませんでした。担任の先生が、

「マイナスの言葉ばかり使うとずっと悪い方向に向かう。自分達の考えをプラスに変えていくことで学級の雰囲気はきっと明るくなる。」

と話してくれました。その話を聞いて、学級を安心して過ごせる場所にしたいと思い、何事も前向きに、プラス思考で考えてみようと思うようになりました。授業の後から、学級では明らかに声の掛け方が変化しました。前向きで友達に寄り添う発言や空気が生まれ、学級は明るく心地よい居場所にかわっていききました。私は、考え方をプラス思考に変え行動していくことの大切さを実感しました。

また、夏休みにオリンピックを見てみると、私と同じ年ぐらいのスケートボードの選手が活躍していました。吉沢こっさんです。こっさんは、他の人がしないような練習にも取り組み、努力をしていたそうです。しかし、初めて出場した大会では、ぎせつを味わったそうです。その時、こっさんは「自分ならできる」という思いでがんばり続け、今の姿につながったと知りました。私は「はっ」としました。思うようにいかない時でもポジティブに考え、前に進み続けることで乗り越えられる…。「わたしにもできるかも…」と思いました。それからは、水

泳でも結果だけに目を向けず、「わたしならできる、大丈夫」とポジティブに考えて練習に取り組むようになりました。今は、記録をもっと伸ばすために、くじけず努力を続けています。

「困難な時こそ、ポジティブに」

これが、今私が、大切にしている言葉です。水泳のとき。勉強するとき。友達関係で悩んだとき。色々な場面での言葉に支えられています。きつい時こそ、この言葉を思い出し、気持ちを切り替えるようにしています。

これから先、楽しいことも辛いこともたくさんあります。もしかしたら、ポジティブに考えられないくらい、悩むこともあるかもしれません。しかし、少しでも頭の片隅にこの言葉があれば、辛いときの自分自身を助けてくれると私は信じています。





## 「いつてきます」で つなぐ心

大刀洗小学校  
六年 辻 将太

みなさん、今日家を出る時に、「いつてきます。」を言った人は、手を挙げてください。ありがとうございます。みなさん、「いつてきます。」は、なぜ、言うのでしょうか。

少し前までのぼくは、家を出る時、家族から「いつてらっしゃい。」と言われても、「いつてきます。」と答えることができませんでした。「いつてらっしゃい。」と言われても、手を振るだけでした。近所の人や見守り隊の方に、「いつてらっしゃい。」と言われても、やっぱり、「いつてきます。」と答えることができませんでした。その頃のぼくは、「べつに言っても言わなくてもいいや。」とか、「そんな大切な言葉じゃないしょ。」、「言うのがめんどくさいな。」、「恥ずかしいな。」という気持ちがありました。だから、いろんな方に「いつてらっしゃい。」と言われても、「いつてきます。」と素直に言い返すことができませんでした。

六年生のある日の朝の活動で、読み聞かせに来てくれた先生が「いつてきます。」の意味を教えてくださいました。「いつてきます。」には、行ったら必ず帰ってくるという意味があるそうで

す。また、総合の学習で、平和について学習していて、特攻隊のことを知りました。特攻隊の方が戦場に飛び立つとき、「いつてきます。」ではなく、「いきます。」とそう言っていたのだそうです。なぜなら、命をかけて飛行機に乗るため、戻ってこれないかもしれないという思いがあったからだそうです。ぼくはその話を聞いて、「いつてきます。」という言葉に意味があることを初めて知りました。このことから、「いつてきます。」を言わないと、帰ってくるのが家族に伝わらないのだということに気づきました。このことから、ぼくは、「いつてらっしゃい。」と言われたら、「いつてきます。」と元気よく言えるようになりました。

今のぼくは、行ったら必ず帰ってくるという意味がある「いつてきます。」を言うように心がけています。「いつてきます。」の一言で、人の心はつながり、安心していろんな所に行くことができます。また、最近では、教室を出る友達に「いつてらっしゃい。」と言うようにもしています。安心して戻ってきてねという思いが伝わればいいなと思っています。

みなさんも、ぜひ、ぼくと一緒に、「いつてきます。」と明るい声で言ってみてください。そして、家族や地域の方、友達とつながり、温かい関係をつくっていきましょう。



## 私が考える多様性

菊池小学校  
六年 鹿田 海吏

あなたは多様性とは何かと尋ねられたらなんと答えますか。私は多様性とは性別、年齢、外見、国籍、性格、考え方、行動などにグラデーションがあることと答えます。この多様性を受け入れることができていないと、人は相手を深く傷つけることがあります。そんな悲しい思いをする人のいない、誰もが安心して過ごせる世界を作るには、二つのことが必要です。一つは、環境を整えること。もう一つは、いつも誰か困っている人がいないかを考えてみることです。

そう考えたのは、ある道の駅のトイレを利用したことがきっかけです。そこには、『オストメイト対応設置完備トイレ』がありました。私



はそれが何か全く知らなかったので、家に帰って調べてみました。すると、オストメイト対応とは、病気によつて自分で用を足すことができず、尿や便の出口をおなかに取り付けている人がいます。その方の器具を洗浄することができる洗い場が設置されているトイレのことだと分かりました。私はそんな病気があることすら知らなかったので、とても驚きました。私が想像していた多目的トイレとは、車椅子に乗っている方も出入りしやすいように、出入り口が広がっていたり、個室が広かったりするものです。でも、多様な生き方を尊重することができるトイレとは、難病の方にも優しいトイレだと分かりました。きつと病気のケアで困っている人や、そのことに気付いた人の声でこのような環境が整えられたのだと思います。その視点で過ぐすと、実は町のマンションなどのエレベーターにも点字が使われていたり、外国語で案内表記がされていたりすることに気が付きました。また、学校にも多目的トイレがあり、男女関係なく使うことができるようになっているたり、児童用の玄関にスロープが設置されていたりすることに気が付きました。これらの気付きから、今の社会は、多様性を尊重する社会に近づいていると感じます。

しかし、まだまだ苦しい思いをしている人もいます。例えば、次のような決めつけをして

いる言葉を耳にします。「男の人なのにネイルをしているのはおかしい」、「肌の色がちがうから日本人ではない」、「普通、大きくなったらキャラクターが入った柄のものは使わないよね」など、数多くの偏見があります。これらの言葉は、多様性を否定していると気付いていないことで起こります。

私はみなさんと、さらに多様性を受け入れる社会を目指したいです。そのためには、病気をはじめ、苦しんでいる人、困っている人の存在や、知らない考え方に気付くことが大切です。そして、受け入れることが大事ではないでしょうか。様々な場所に行き、たくさんの方を見て、多くの人と関わり、話し合うこと、考えを共有し合い、考えを人から人へつないでいくことが大切です。

みなさん、力を合わせて、一人一人の多様性を受け入れていく社会を作っていきましょう。



## ピアノを弾いてみたい

本郷小学校  
六年 佐藤 陸

僕は、運動が好きです。でも、僕は、激しい運動ができない身体なので、運動会や持久走に、みんなと同じように参加することができません。

運動に制限があることで、僕は、悲しくて、時々苦しくもなります。だからこそ、ある時、運動以外でも、僕にできること、僕が心からしたいと思えることはないかと思い、目標を探すようになっていました。

そんなある日、僕は、偶然、目標を見つけることができました。それは、ストリートピアノとの出会いでした。

皆さんは、ストリートピアノを知っていますか。駅やショッピングモールに置いてあるピアノで、誰でも演奏していいようになっています。

僕が、あるショッピングモールに出かけていた時、そのストリートピアノで、ものすごく上手に演奏している人がいました。その人は、楽譜もないのに、体を動かしながら気持ちよさそうに弾いていて、まるで、自分だけの世界に入り込んでいるようでした。通りすがりのお客さんが、何人も、足を止めて、その人の演奏

令和7年3月3日

聞いていました。もちろん、僕もそのひとりでした。

家に帰ってから、ストリートピアノのことが、頭から離れませんでした。その時、僕に、ピアノを弾いてみたい！という目標が見つかったんだ！と気付きました。

ピアノを習うことも考えましたが、その勇気が出ませんでした。だから、誕生日に電子ピアノを買ってもらい、動画を見ながら、自力で練習することにしました。

僕が、最初に弾けるようになっていたいと思った曲は、『マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン』という曲でした。有名な映画、『タイタニック』の主題歌です。初めのうちは、やる気が続いた練習できていましたが、一度だけ、めんどろになって、あきらめてしまいましたが、戻りました。でも、やっぱり目標が頭から消えず、何度でも何度も練習し、やつと一曲通して弾けるようになりました。家族に聞いてもらい、母にほめてもらったことを、今でもよく覚えています。

そして、僕は、あのショッピングモールのストリートピアノで、『マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン』を弾いてみる！と決心しました。僕の番が来て、イスに座った時の、きん張感。たくさんの方が、僕に視線を向けているのがわかりました。…それでも、僕は、勇気を出

して、指を動かし始めました。弾いている間のことは、よく覚えていませんが、とにかく夢中でした。

：最後の音を鳴らし、指を、鍵盤から離しました。その時の達成感が、すごかったです。そして、聞いていた人から、声をかけてもらいました。一人のおじさんから、「なつかしい曲だった」と言ってもらいました。僕のピアノで、人とのつながりができたようで、とても嬉しかったです。

「ピアノを弾いてみたい」という目標から始まった、この経験。このことをきっかけに、僕は、新しい挑戦を始めました。『あの夏へ』という、新しい曲を練習し始めましたし、迷っていたピアノ教室にも、通い始めました。今はまだ読めない楽譜を見ながら、すらすら弾けるようになるのが、自分でも楽しみです。そして、僕がそうだったように、僕も、聞いている人の心を動かすことができるような演奏ができるようになります。

そして、これからは、自分のできないことばかりに目を向けず、自分のできるところをたくさん見つけて、挑戦していきたいです！



ひとりじゃないよ  
みんながいるよ！

菊池小学校  
六年 川野 大誠

みなさんは、周りの人に助けてもらったことがありますか？ぼくは、勉強で分からない時や友達とのことで悩んだり困ったりした時に、よく周りの人に話を聞いてもらって、助けてもらうことがあります。その度に、ぼくは周りの人に支えてもらっているなと感じます。しかし、最近では、自分の悩みを打ち明けられず、自殺してしまったり、誰かを傷つけたりしてしまうことが問題になっています。この問題を解決するためには、二つのことが必要だと考えます。一つは、友達や家族など身近にいる信頼できる人に自分の悩みを相談することです。二つは、相談できる環境をみんなで作ることです。

ぼくも、塾で進路を決めていくときに「これからどうしたらいいのだろう。」「勉強が分からなくなったらどうしよう。」「悩んだことがありました。悩んでいた時は、「これから先、どうなるのだろう。」と、先が見えずに考え込んでしまいました。日が経つにつれ、不安がどんどん大きくなり、自信もなくなっていきました。そんな時、いつも仲よく話したり、遊んだ

りしている学級の友達に相談しました。すると、意外にも友達も同じようなことで悩んでいることを知りました。友達は、ずっと、ぼくの話聞いてくれました。「悩んでいるのは、自分だけじゃないんだ。」と思うことができ、心細かった気持ちがほぐれていきました。解決策は見つかりませんでした。話を聞いてもらえるだけで、不安な気持ちが消え、すっきりすることができました。この経験から、一人で抱え込まずに、自分から友達や信頼できる人に相談してみることが大事だと気付くことができました。

また、自分から声をかけることができなかったも、相談する方法はたくさんあります。例えば、ぼくの学校では、毎月、生活アンケートをしています。そのアンケートをもとに、先生と学校のことや困っていることを話すことができます。先生方がひとりひとりと話す時間をつくるのは、抱え込んでいた悩みを話すきっかけをつくるためだと思いました。先生に話を聞いてもらう中で、アドバイスをもらったり、一緒に考えてもらったりして、解決策が見つかることもあると思います。また、学校では、「子どもホットライン」という電話やSNSやLINEを通じて、悩み事を相談できる窓口のおたよりが配られています。他にも、調べてみると、福岡県は「あなたのミカタ」といってメー

ルを使つて、無料で相談できる取り組みがされているそうです。このように、電話で話したり、メールやSNSで伝えたりするなど、ぼく達の周りには相談に応えてもらえる場がたくさんあります。相談することは、難しく勇気がいることかもしれませんが、しかし、このことをチャンスと考え、相談してみてください。そうすると、ぼくのように、自信を取り戻すことができるかもしれません。

相談することで、不安が消え、自信を取り戻すことができます。また、「ひとりじゃない」と安心することができます。ぼくは、これまで周りの人にたくさん支えられてきました。これからも悩み事がある時には、自分から相談していこうと思います。そして、今まで支えてもらったように、これからは、ぼくが悩んでいる人の相談を聞き、支えられる人になります。みなさんはひとりじゃありません。みんながいます。



## 少年の主張大会

「私からのメッセージ」中学生の部



未来を創る「価値観」

大刀洗中学校

一年 青木

真凜

みなさんは「価値観」と聞いたたら、どんなことを考えますか？「価値観」とは、物事の価値についての、個人の基本的な考え方という意味があります。私は、この「価値観」というものは、人を傷つけてしまうこともあるけれど、大切なものであると考えます。そのように考えた理由は、二つあります。

一つ目は、自分の価値観で自分勝手に相手のことを決めつけてしまうことがあるからです。自分の中で「価値観」があることで、物事の評価などをすることができます。しかし、「価値観」は人それぞれで違います。たった一瞬で見ても、判断して、「あの人は○○だ。」と決めつけて、相手を傷つけてしまうこともあります。実際に、中学校に入学したとき、ほとんどの人のことを知らないで「あの人は○○みたいな感じの人かな。」と自分の心の中で決めつけていました。話してみると、意外と気が合ったり、

思っていたよりも優しくなったりと知らない一面を知り、仲良くなることができました。この経験から、相手のことを知ろうと努力せずに自分の価値観だけで決めつけるのではなく、自分から相手に関わることで、相手も自分も傷つけずに毎日を楽しく過ごすことができるのではないかと考えました。

二つ目は、「価値観」とは「その人の生き方そのもの」が大きく影響しているということではなく、生きていく中で、いろいろな経験や体験、人との出会いなどによって少しずつ変わっていくものです。だからこそ、ひとつひとつの出会いを大事にすることが相手を大切にすること、自分を大切にすることに繋がると考えました。

これらの理由から、「価値観」とは、相手も自分も傷つけてしまうこともあります、大切なものであると考えました。自分の「価値観」を広げるためには、新しい出会いや経験が大きく役立ちます。

このことを意識することで、未来を創っていくことができるかと私は考えました。



## 違いを認め合い

大刀洗中学校

二年 早野

風紗

私はテレビで「ジェンダー差別」という言葉を耳にしました。初めて聞いたこの単語にどんな意味があるのか調べてみました。すると、「ジェンダー差別」とは、男性または女性であることを理由に不当な扱いや差別を受けることを指すということが分かりました。その時から、自分の周りを意識してみるとSDGsの目標や新聞、インターネット記事など様々な所でその言葉が目に入りました。昔に比べると、男女でランドセルの色の選択の自由さや制服の種類が指定されている所は少なくなっており、「ジェンダーレス」など自分らしさを大切にしている考えが広まっているように感じますが、まだ「ジェンダー差別」に繋がる発言、行動、考えがあるのではないかと思います。

誰もが皆、過ごしやすい社会にするために必要な配慮はあってもいいものですが、差別にならないように注意をしないといけません。しかし、私の思う身近な「ジェンダー差別」は、なぜ日本は同性婚が認められていないのか、なぜ少年野球には「少年」がついているのか、なんのためにレディファーストがあるのかなどです。

小さい話だと思ったり気にしたことがなかったりする人もいます。そのことに私はずっとひっかかっていました。

また、私の所属しているソフトボール部には、男子生徒は一人もいません。入部することができないからです。果たしてそれは「ジェンダー差別」なのか、周りの大人に聞いたり、インターネットで調べたりしました。すると、ソフトボールだけでなく、競技スポーツの多くは、男女の体格の差や力の差などで公平性を確保するために男女で競技の場を分けるということが分かりました。これは、「差別」ではなく安全にスポーツするための「区別」です。このように「差別」と「区別」の境目は難しく、軽率な発言、行動をすることで「ジェンダー差別」に繋がってしまいます。自分の発言に重みを感じ、責任を持って行動をしないといけません。

そして、どうしたら「ジェンダー差別」をなくすことができるのか考えました。「ジェンダー差別」をなくすためには、「男らしく、女らしく」という概念をなくさないといけません。そのためには、自分とは違う人がいることを当たり前に思い、人それぞれの好みを尊重することが大切だと思いました。

世の中にはたくさんの方がいて、人それぞれ、容姿、性格、好みは違います。それらを否定することで「ジェンダー差別」は生まれると思

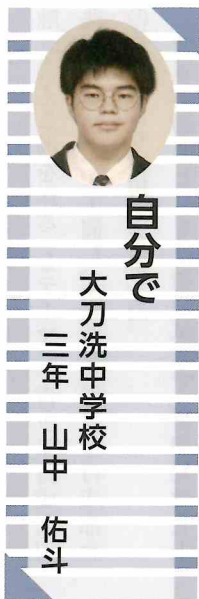
いました。今、私にできることは相手の好みを尊重し、大切にすることだと思いました。そして、男、女だけでなく、一人の人としてその人を大切にしようと思いました。「ジェンダー差別」のない明るい未来になるために、自分にできることを見つけ行動していきたいです。



## 自分で

大刀洗中学校

三年 山中 佑斗



みなさんは「自分で考えろ」「自分でやれ」というようなことを言われた経験はありませんか。私は母からよく言われます。

私は小学校の頃、この言葉が嫌いでした。様々な嫌なこととともに送られる言葉だったからです。特に私が嫌いだったのが掃除です。あまり掃除が得意でない私は当時一年に二、三

回やらされる掃除がとても面倒でした。よく「どうして母がやったほうが早いのにやつてくれないんだろう」と思っていました。ですが、それを考え直すと思うことがありました。

小学校から中学校になると、父から高校進学のためにも一年生のうちから頑張れと言われていました。小学生の時、あまり真面目でなかった私はとても苦労させられました。「頑張る」という言葉は言うのは簡単ですが、具体的に何をしたらいいのかが分かりにくいのです。なので可能な限り模範的であろうとしました。テストだけでなく日常生活でも様々な工夫をして、授業に取り組みました。これが私にとつて初めての「自分で行動すること」でした。この経験は私に間違いなく成長をもたらしました。おしゃべりをしないことは私を我慢強く、失敗を認めることは私を素直に、人に注意をすることは自分を見直すきっかけをつくってくれました。このことから私は自分で考え、何かを試してみるこの重要性について知ることができました。

そして、今年私は中学三年生となり、たくさんの選択を迫られています。でも、一年生から様々なことを自分で考えてきたおかげであり、悩まずに済んでいます。まだまだギリギリに提出物を出してしまうなどの問題点もありますが、私が今、こんなにも楽しく生きてい

られるのは「自分で」することの大切さを知ることができたからだと思っています。

みなさんの中には選択を迫られている人がいるかもしれません。他の人の言っていることを全て信じて行動することが悪いわけではありませんが、他の人とあなたは違う人です。やりたいこと、できること、できないこと、様々な違うところがあります。そのような中で他の人のことを全て信じるというのは少しリスクがあると思います。あなたが本当に望む未来を手に入れるためには、他の人の発言から必要な情報だけを抜き出し、自分の能力を充分に発揮できるのはどれか、限りある選択の中から「自分で考えて」選ぶこと、これが選択において私が最も重要だと思うことです。



## ふれあい餅つき大会

大刀洗校区民会議  
服部 鉄也

十二月十四日(土) 大刀洗小学校体育館にて、五年ぶりに「ふれあい餅つき大会」を開催しました。

コロナ禍の影響で見送られていた大会でしたが、「古き良き文化の継承」「地域力の強化」「健全育成」と「地域と学校と家庭が共に協力し、子どもたちと触れ合える場を作る」をテーマに、青少年育成大刀洗校区民会議が主催し、南部コミ青少年育成部会の共催により実現できました。

地域実働型としては初の試みで、参加児童七十三名に対し大人がナント百七十二名!! 総勢二百四十五名もの応募がありました。

PTAや子ども会、区長会、シニアクラブなどの地域団体や、有志でご参加下さった先生方、中学生ボランティアも一緒にあって「よいしょー!」「よいしょー!」と楽し気な掛け声が体育館中に響き渡り、笑顔いっぱい、心温まる、みんなが繋がる、ふれあい餅つき大会となりました。ご協力いただいた全ての皆様に、この場をお借りし心より感謝申し上げます。

これからも、青少年育成大刀洗校区民会議が一丸となり、子どもたちの健やかな成長のために取り組んでいきたいと思っています。



## 「歩け歩け」と「ボッチャ」を開催

菊池校区民会議  
近藤 和廣

本年度、菊池校区は十一月十六日(土)に「歩け歩け大会」、二月二十五日(土)に「ボッチャ大会」を開催することができました。

「歩け歩け大会」は、コロナ禍や雨天のために中止になり、五年ぶりの開催。当日は曇りで、暑くも寒くもなく絶好のウォーキング日和でした。約百人が参加し、午前十時に菊池小学校から筑前町多目的運動公園までの四キロメートルほどを約一時間かけて歩きました。昼食後のお楽しみは、全員参加のビンゴゲーム。数字が発表されるたびに、「惜しい」「あと一つ」などの声が聞こえました。帰途は午後一時。全員が無事、小学校に戻りました。

一月は伝統行事として「もぐら打ち」と「もぐら打ち」を続けてきましたが、材料である竹の調達に年々難しくなってきたことから、初の試みとしてパラリンピックの正式種目となっている「ボッチャ」を小学校体育館で実施しました。参加したのは小学生三十人。

六人ずつの五チームで、赤、青、黄、緑、オレンジの鉢巻をしてのリーグ戦。先攻チームが的となるジャックボール(白球)を投げ、続けて先攻が赤ボール、後攻が青ボールを投げます。それぞれ六球投げて、白球に近いボールの数で競うもので、オレンジチームが四勝〇敗(得点は二十点)で優勝。以下、青チーム、緑チーム、黄チーム、赤チームでした。



## 羽釜でご飯を炊こう！

本郷校区民会議  
井上 初美

十二月十一日、校区育成会主催の「羽釜でご飯を炊こう」が本郷小学校において開催されました。本行事は、今年で第三回目になり定着しつつあります。

参加者は、三年生五十七名、五年生五十七名、地域ボランティア四十数名、先生方を含め総勢百五十名以上の賑やかな一大プロジェクトとなりました。

今年のテーマは「未来をみんなでつくろう（笑顔でつながる元気な本郷）」で、三年生は「探ろう！昔の人の知恵」、五年生は「防災の町」という総合的な学習の時間です。「春から秋にかけて自分たちが頑張つて育てたお米の収穫を喜び、関わつてくださった方々に感謝をしながらご飯を炊いていただく」という思いの授業ではないでしょうか。

児童は、十六グループに分かれそれぞれの釜を囲み、地域のボランティアに見守られながら、火起こしから火力調節などを体験し、寒い中でも心がほつこり、和気あいあいの楽しい時間でした。

上手に炊き上がったごはんは、「おいしい！」「おいしい！」と口いっぱい頬張る子どもたちに囲まれて、私たちボランティアもとても充実したひとときを過ごさせていただきました。本郷小学校の友達たちのみなさん、ありがとうございます！



## 自然に触れながら、地域の方々との交流を育む

大堰校区民会議  
溝上 有紗

今年度も、第二十四回大堰校区ふれあいウォーキングを十一月十六日に開催することができました。

当初、開催を予定していた日は、あいにくの天候で延期になりましたが、当日は約百名の参加者で賑わいました。

中学生ボランティアが中心となり、子どもから大人まで各班に分かれ、大堰交流センターから片の瀬公園までを往復するコースです。交通安全協会、子ども見守り隊、消防団の方々に安全面での協力いただき、少し暖かい秋を感じながら目的地へと向かいました。

片の瀬公園に到着してからは、毎年恒例となった宝探しゲームが行われ、子どもたちの歓声に包まれました。見事一番に宝を探し出した小学生は、「あつた！」「去年もここで見つけた！」とニヤリ。子どもの記憶力に脱帽するとともに、毎年楽しみに参加してくれていることをとても嬉しく感じた瞬間でした。

公園での閉会式後は、お楽しみ抽選会が行われている大堰交流センターへと帰ります。期待に胸を弾ませながら自分の抽選番号を探す姿が印象的でした。

開催にあたり、ご理解

とご協力をいただいた地域の皆様に心よりお礼申し上げます。



# 令和6年度 福岡県青少年育成県民会議 筑後北地区協議会 研修大会

## 大会テーマ

### ■ MLBドジャース 大谷翔平選手語録

「人生が夢をつくるんじゃない。  
夢が人生をつくるんだ。」

※高校生の時に書いた  
「人生の目標シート」に記した言葉



福岡県青少年育成県民会議筑後北地区協議会研修大会を大刀洗町青少年育成町民会議が担当開催しました。

来賓に、福岡県議会議員の井上様と横尾様、大刀洗町議会議員の高橋様をお招きして、実践発表、五庄屋太鼓演奏及び講演を行いました。

※ この研修大会は、筑後北地区協議会に所属する3市1町（久留米市、小郡市、うきは市、大刀洗町）が輪番制で担当しています。

## 令和6年8月18日(日)開催

時間：13時00分～15時30分

場所：大刀洗ドリームセンター

内容：① 実践発表

「大刀洗町青少年育成町民会議の取組」  
青少年育成町民会議事務局員

② 大刀洗町五庄屋太鼓保存会による演奏

1 曲目「五庄屋太鼓」

2 曲目「桜」

3 曲目「狂焰 & 烈火」

③ 講演(トークショー)

・ 演題「夢をかなえる！」

～チャレンジすることの大切さ～

・ ゲスト 柴原 洋 氏 (元プロ野球選手)

・ 司会 宮脇 憲一 氏 (RKBアナウンサー)

宮脇アナの明るくユーモア溢れる司会によるトークショーは、柴原様の野球愛と野球に対する情熱に感動させられた素晴らしい講演でした。

一流になる人の共通点は「努力の天才」だということ。柴原様の小さい頃の夢はプロ野球選手。実現させるために、夢を目標（短期・長期）に変え、どうすればうまくなるかを常に考え、自分より上手な人の何倍も努力したそうです。「同じことをしていてもそれ以上のレベルにはなれない。失敗をおそれず、新しいことにチャレンジすることが大事。チャレンジしないと何も生まれない。失敗したら考え、またチャレンジ！努力と研究」だそうです。最後に、「野球に専念できる環境をつくってくれた親に感謝」と言われました。

令和6年度福岡県青少年育成県民会議 筑後北地区協議会 研修大会

Talk Show!

夢をかなえる

チャレンジすることの大切さ

HIROSHI SHIBAHARA 入場無料 事前申込み不要!

柴原 洋 氏 トークショー

2024年 8月18日 日

会場 大刀洗ドリームセンター

大刀洗町大ホール 大ホール (収容人数約1,000名)  
最上段 大ホール 大ホール (収容人数約200名)

12:30～ 受付  
13:00～ 開会行事  
13:30～ 実践発表  
13:50～ プレミアムセッション  
14:20～ 演奏会 (トークショー)

宮脇 憲一 氏  
RKBアナウンサー

※ 希望者の氏名(無料)あります。  
※ 9月9日(金)までに下記にお申込み下さい。

お問い合わせ先 大刀洗町青少年育成町民会議事務局(大刀洗町教育委員会 生涯学習課) TEL 0942-77-2670  
主催 福岡県青少年育成県民会議筑後北地区協議会 大刀洗町青少年育成町民会議  
後援 大刀洗町 大刀洗町教育委員会





# 親子を楽しむ！ まなビー講座



『家庭の日』推進事業「親子を楽しむ!まなビー講座」と青少年育成町民会議とのコラボ企画  
令和6年度は、5回の講座を開催しました。

## 第1回 防災講座「災害クッキング！」 ～作る！食べる！もしもの時のごはん～

**令和6年7月15日(月) 祝日開催**

昨年開催した防災講座で、災害時の食事について関心が高いことがわかったので、今回は災害時の「食事」についてに焦点を当てての講座を開催しました。



災害時の食事について、ライフラインが止まった事を具体的に想像して、卓上ガスコンロの有用性と水のストックの必要性を学びました。

そのあと耐熱のビニール袋を使った湯せん調理を、実際に調理して体験。

「湯せんでごはんや蒸しパンができるのにはびっくりしました」、「普段の食事で作って食べ慣れているものばかりで、子どもたちも抵抗なく食べてくれそう」との感想をいただきました。「災害が起こった時の不安が少し減りました」との意見もあり、役立つ講座になったと思います。

**毎月第三日曜日**

## 家庭の日

家庭の日(毎月第三日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしよう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家族を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう





## 第2回 「たまには親子でボードゲームしようか！3」

**令和6年8月25日(月)開催**

今年で3回目の開催となる人気の講座です。

今回は「レトロゲーム」をテーマにして「すごろく」を楽しみました。

核家族化が進みひとりっ子も多い時代で、兄弟や親戚と大人数でワイワイ遊ぶ体験が少なくなっているようで、中にはすごろくを初めて体験する子もいました。

「家でもまたやってみたい」、「面白かったから友だちともやってみたい」との感想と共に、昨年の参加者からは「去年のゲームが楽しかったので、同じものを買って家でも遊んでいます」とのお話もあり、紹介したボードゲームが家族のだんらんの一助となっているようでした。



第3回

「親子で体験！飯盒炊爨」

令和6年9月29日(土)開催

時間：8時40分～12時00分 場所：中央公民館及び大刀洗町民グラウンド

町内の小学生とその保護者5組24名が参加され、「親子で体験！飯盒炊爨」を開催しました。飯盒炊爨は、ほぼ全員が未経験で、おいしいごはんが炊けた組、ちょっと焦げた組などそれぞれでしたが、親子スキンシップによる共通の体験をし、会話も弾んで絆が深まったようです。また、参加者同士も協力しあい、交流が図られて楽しい半日となりました。

米研ぎ



火おこし体験



「マッチ擦り」

「ファイヤースターター」

飯盒炊爨



〈保護者〉  
火を扱うことがない中で、とても良い体験になった。危険なことをするというので、火傷しそうなやりながらも経験を積むことで今後の参考になると思う。ありがとうございました。

〈お子様〉  
火を使うことは危ないと思ったけど、ルールを守ってやると楽しかったです。火を使ってやるのができてよかったです。ありがとうございました。

〈保護者〉  
飯盒炊爨は、憧れで一度はやってみたいと思っていたが、自分で道具を準備するにはたいへんで、このような機会があり、自然の中で火起こしからできて貴重だった。電気ですぐにごはんが炊ける便利な生活の中で時間と労力をかけ一緒に体験できてよかった。

〈お子様〉  
楽しかったし、協力できて、目がめっちゃくちゃ痛かったけど、ごはんがおいしそうでした。



おいしく炊けました！



## 第4回

## 「親子で歴史体験 かぶとをかぶろう! 鎧にさわろう!」

令和6年10月14日(月)祝日開催

大刀洗町で所有するレプリカの甲冑を会場に持込んで、甲冑(兜や鎧)について学びました。

甲冑の各パーツについての説明をした後、実際に兜を頭にのせての撮影会を開催。

途中、図書館に来ていた親子も飛び入りで参加して甲冑に興味津々でした。

大人も子どももせっかくなのでと一度ずつ兜を被ってみました。「思っていたよりもすごく重い」「首が折れそう」といった意見が多かったです。講座終了後も飾られた甲冑が気になるようで、甲冑の「面頬(怖い顔をしたお面)」をこわごわのぞき込んだり、こっそり鎧に触ってみたい。

最終的には甲冑の前で、段ボールと新聞紙でつくった刀を構えて撮影会となりました。

実際に兜を被る機会はありませんでしたが、貴重な体験となったと思います。

「博物館とかで遠くから見るだけじゃなくて、こうやってすぐそばで見たり触ったりできると面白いですね」という感想もいただきました。



## 第5回

## 「冬の夜の大冒険?夜のドリームセンター探検」

令和6年12月15日(日)開催

今回の「夜のドリームセンター探検」は、以前開催した際とは少し趣向を変えて、目印を探して見つけてルートを進んで行く「探検」の要素を大きく取り入れました。

出発前に災害に備える「非常用ボックス」や「非常用ボトル」等を紹介し、そのあとに探検と懐中電灯の使い方のルールを説明してから家族ごとに探検に出発してもらいました。

ルートを示す矢印やチェックポイントなど見落とさないように、しっかりと足元を懐中電灯で照らしながら移動してもらえたようで、危険もなく無事に講座を終えることができました。

出発するまではやや緊張した面持ちだった子どもたちも、ゴールの展示ホールへ戻って来る頃には満面の笑みで「面白かった!」「もう一回行きたい!」と元気に教えてくれました。

講座終了後には最初に紹介した「非常ボックス」や「非常ボトル」の中身を手に取って確認したり、「今後備える参考にするので」と写真を撮って帰られる方もいらっしゃいました。



その他

「育成通信」

小学生を対象に、親子で読んでいただきたい「育成通信」を年4回発行しました。  
今年度は、「自然遊び&スポーツ」の特集です。(1面1/2のみ紹介)

第1号「釣りのための『魚のあれこれ』」

令和6年4月24日発行

第2号「ウォータースポーツ」

令和6年7月1日発行

**育成通信 第1号**  
(2024年4月24日)  
発行 大刀洗町青少年育成委員会  
【家庭の日連絡支援部】

令和6年度は「自然遊び&スポーツ！」シリーズ  
◆今回のテーマ/「釣りのための『魚のあれこれ』(前半)」

魚釣りはつわつわ楽しいけれど自然相手なので難しいです。技術や知識、情報収集も必要。魚にはたくさんの種類があり、特徴も様々。魚のことを知れば、魚の行動や気持ち(?)が分かり、釣りが好きになるかも！ということ、今回は「魚のあれこれ」のほんの一部を紹介します。

1 魚の分類・生態

(1) 魚類とは…

- 脊椎(背骨)がある 動物から四肢(両手両足、4足) 節脚類を除いた動物群を魚類といいますが、
- 基本的に一生のほとんどを水中で過ごし、えら呼吸を行います。ひれを動かして移動します。
- ほとんどの種は、外界の温度によって体温を変化させる変温動物なので、水温に敏感です。
- 魚類全体の種類は、2.5万~4万種(海水魚は1.6万種)あり、脊椎動物の半数以上を占めます。

(2) 海水魚・淡水魚

ア 塩分環境

魚は塩分環境により海水魚と淡水魚に大別されますが、汽水や汽水・淡水どちらでも生きられる魚もいます。

- 汽水魚(海水と淡水混合)：マハゼ等
- 海水・淡水どちらでもOK：ボラ、スズキ、黒鯛など
- 陸産魚(産卵のために海に降りる)：ウナギ
- 遡河魚(一旦陸産し、産卵のために戻ってくる)：サケ・マス類(河川型もある)、アユ(下流域で産卵)

※ 海に降りたマス類は名前が変わる。(見た目も体が大きく変わります)

・イwanaアマス ・ヤマメウサウマス ・アマゴウサウマス

**育成通信 第2号**  
(2024年7月1日)  
発行 大刀洗町青少年育成委員会  
【家庭の日連絡支援部】

令和6年度は「自然遊び&スポーツ！」シリーズ  
◆今回のテーマ/「ウォータースポーツ」

「夏!」といえば、ウォータースポーツですね(泳ぎいらない人もいますけど…)。みなさんが想像するウォータースポーツはなんですか? 水泳? サーフ? ヨット? タイピング? いろいろあるウォータースポーツの中で、今回は「SUP(サップ)」と「カヌー」を紹介します。水の上を自由に移動でき、子どもや初心者でも気軽に楽しめます。川や海との距離が近く、水や自然との一体感を味わえ、水中の生き物などを観察することもできます。興味があれば、この夏、家族で体験してください!

1 SUP(サップ)

(1) SUPとは

SUPとは「Stand Up Paddleboard(スタンドアップ パドルボード)」の略称。その名の通りボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を巡っていく軽便な乗り物です。(右図) 漕ぎが大きい専用ボードを使うため簡単に立て、年齢などを問わず初心者でもすぐに楽しめます。全長の半分はパドルを漕ぐられるそうです。

(2) SUPの起源は?

その歴史は諸説ありますが、発祥はサーフィンのメッカであるハワイ。1960年代に、ビーチボーイたちが、カヌーのパドルを使い、サーフィンのロングボードで波乗りを楽しんでいたのがルーツとされています。水上を移動する手段としても有効な上、海だけでなく、湖や川でも楽しめることもあって、世界各地に広がり、今では人気です。

第3号「キャンプと防災」

令和6年10月1日発行

第4号「クロスカントリースキー」

令和7年1月14日発行

**育成通信 第3号**  
(2024年10月1日)  
発行 大刀洗町青少年育成委員会  
【家庭の日連絡支援部】

令和6年度は「自然遊び&スポーツ！」シリーズ  
◆今回のテーマ/「キャンプと防災」

アウトドアグッズは、防災でも活躍! 今回は、災害時があると安心なアイテムを紹介!

キャンプなどで使うアウトドアグッズには、防災で活躍するアイテム(物)がたくさんあります。地震や大雨といった災害が多い日本では、非常時に備えた準備が欠かせません。災害が発生した際は、電気がガスなどのさまざまなものが使用できなくなるかもしれないので、災害時や電気がガスなどが使えないときの備えとして活用するアウトドアグッズを紹介します。

■リュック

リュックは、避難時や日帰りなど非常時に必要な道具が入った防災リュックとなります。一般的にリュックよりもフィット感がよく持ち運びしやすいです。また、両手が空くため小さな子どもと避難しなくてはいけないときにも便利です。(右図のリュックは20L、10Lと2つの容量の水・食料・キャンプ用品・防災用品が入ります。)

■ランタン

停電が心配しやすい災害時には、ランタンがあると便利です。LEDのライトは長持ちしやすく、電気があれば特別な準備は必要ありません。ガソリンやLPガス、灯油などを使用するランタンは周囲を明るくするだけでなく、防犯対策にもなります。状況に合わせて、自分に合ったランタンを選んでみましょう。

■ヘッドランプ、ライト

避難時に荷がりは欠かせません。夜間はもちろん、昼でも場所によっては暗いので、暗い中でも行動できる可能性があります。懐中電灯より、頭

**育成通信 第4号**  
(2025年1月14日)  
発行 大刀洗町青少年育成委員会  
【家庭の日連絡支援部】

令和6年度「自然遊び&スポーツ！」シリーズ  
◆今回のテーマ/「クロスカントリースキー」

スキーの原点!

冬のスポートといえば、スキーですね。みなさんは、スキーをしたことがありますか? 私は、以前北海道に4年住んでいました。冬は平均でも降った雪が10cm(程度)と少ないので、スキーはほとんど休みの日、平日の夜もスキー場に通ってました。これは、みなさんが知っているグレンデスやアルペンスキーです。アルペンスキーは、下り坂がないので安全です。ですからスキー場は山にあり、私は、アルペンスキー以外にもクロスカントリースキー(略してクロカンスキー)を楽しんでいました。クロカンスキーは、走る(歩く)スキーです。ですから、雪が積もれば家の近くでもできます。坂も上れます。テレビで競技を見た人がいるかもしれませんが、今回はみなさんになじみの深いクロスカントリースキーを紹介します。

■遊びとしてのアルペンスキーとクロスカントリースキーの違い

- アルペンスキー
- 坂を一気に滑り降りるスピード感や曲がけるテクニックを重んじ、その達成感を味わうスポーツです。特に、一瞬の瞬間にシュプール(スキーで滑った跡)を描くのは爽快感があります。
- クロスカントリースキー
- 大自然の風景を駆け抜けるときは、雪道に歩きながら自然の音、爽快感、爽快感の充実感! 雪の中で遊びながら、知らず知らずのうちに心肺機能や体幹が鍛えられるというのが「クロカンスキー」です。雪の上を、歩いて30分かかるコースを10分で駆け抜け、雪上での運動量は「バクン!」クロスカントリースキーは、北欧を中心に盛んに行われています。田舎のおじさん・おばさんウォーキングや雪上スキーを楽しむ人、いろいろな人がいます。

編集後記

今年も各校区の育成会活動には、多くの子どもたちが参加してくれ、世代間のふれあい交流ができたことを嬉しく思います。

今年の「少年の主張大会」では、発表者の力強い言葉に感動し、社会の変化や自身の置かれた環境に柔軟に対応していくために考え、行動している前途有望な子どもたちの姿に力を感じました。また、今年度も様々なニュースを耳にし、心を痛めることも多かったのですが、世の中の問題に真摯に向き合い、子どもたちの健全な成長を願い、地域と手を取り合い、今後も活動していきたいと思っています。これからの育成会が色々な価値観が混ざり合う場となり、子どもたちの好奇心を刺激し、豊かな心を育む場になっていくことを願っています。

最後になりましたが、本年度も育成会の活動にご尽力いただきました関係各位の皆様へ深く感謝いたします。(野瀬 美穂)

【編集委員長】

大堰校区

野瀬 美穂

【編集委員】

大刀洗校区

服部 鉄也

菊池校区

近藤 和廣

本郷校区

辻 啓子

大堰校区

溝上 有紗

事務局

久保山 亜聖

原 勝美

穴井 努